

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の校是である『自彊の精神』（自らつとめて、たゆまぬ努力を怠らない精神）を培い、未来を切り拓く創造的な思考力とたくましく生きる力を身につけ、グローバル社会をリードできる人材を輩出する学校をめざす。

1. 全日制普通科単位制という学びのシステムを活用して、将来大学や社会などで伸びる生徒を育てる。育てたい生徒の資質は次の4つである。

①「世界」という視点で志を持つ 高い志を掲げ、グローバルな視野に立って行動できる資質と能力を養う。「世の為、人の為」に何ができるか。自分の能力を社会の為にどのように活かすかことができるか。この「志」が重要である。そしてその「志」に求められるのが、「世界」を俯瞰するグローバルな視点である。

②知性を磨き続ける 知識基盤社会を生き抜く学力を確実に身につけるとともに、幅広い教養（リベラル・アーツ）を備え、主体的に学ぶ力を育成する。「知識基盤社会」で重要なことは、「しっかりとした教養を備えること＝リベラルアーツ」と「学び続ける姿勢」である。

③人生を描く 「自分の歩む人生のフィールドをどこに置くのか?」、このことを描く力が必要である。己を知り、社会を知る。その上で、人生のフィールドを決めることが大切である。

④人と繋がる、地域・社会と繋がる、世界と繋がる 自主活動や特別活動など学校の様々な教育活動を通じて、自主・自立の精神を培うとともに、社会人基礎力を育成する。人と繋がる・繋げる力がなければ、多くのことをなし得ないのは自明の理である。意見の異なる人、文化や宗教と違う人たちと繋がる力は、グローバル社会での必須の力である。

2. 生徒に対する教育力を高めるため、教職員が常に真摯に研鑽と修養に努めるとともに、互いに情報の共有化を図り、連携を密にして教育活動に組織的に取り組む。

2 中期的目標

1 知識基盤社会を生き抜く学力を確実に身につけるとともに、主体的に学ぶ力を育成するための取り組み

(1) 学習に主体的に取り組む姿勢を徹底させるとともに、進路実現に向けた学力の向上に努める。

ア 日常的に「質の高い授業」を提供することで、進路実現に結びつける学力を育てる。

イ 3年間の教育プログラムをつくり、教職員間で内容を共有することにより、系統的で継続的な学習指導を行う。

ウ 部活動と勉学の両立を図るために、学習ガイダンス指導を充実させるとともに、家庭学習を充実させる（授業以外の平均学習時間：学年+1時間を目標値とする）

エ 教科における組織的な講習体制を構築するとともに、生徒の参加を促す取り組みを進める。

オ 各教科で課題研究等の取り組みを進め、生徒が主体的に学習に取り組む授業を積極的に行う。

カ 探究的な学びや読書活動の推進を図る。

2 生徒が高い志を持ち、より高い進路希望を実現するための取り組み

(1) 生徒の国立大学及び難関私立大への志望を実現するための取り組みを進め、国立大学現役合格者（現役合格40名以上）及び難関私立大学（関関同立200名以上）への合格大幅増をめざす。

ア 単位制の特色を活かして、自立した進路選択ができるようガイダンス機能を強化し、科目選択指導と進路指導を連動させた系統的な進路指導を実施する。

イ 個々の生徒の志望の実現に向けて教職員が日々の実践の中で密接な関係を築き、より丁寧なキャリアカウンセリングを行う。

ウ 生徒が進路について深く考え、高い進路意識を持てるよう、大学や職業について考える機会を「総合的な学習の時間」や特別活動等を活用して体系化する。

3 国際的視野に立って行動できる人材（グローバルリーダー）及び地域でリーダーとして活躍する人材（ローカルリーダー）の育成

(1) 文化祭・体育祭等の行事、部活動などを通じて、人間関係育成能力を育て、将来のリーダーを育成する。

(2) グローバル化が進む社会で活躍する人材の育成のために、異文化交流の機会を増やし、国際交流及び語学研修を推進する。

(3) 防災・人権などの地域の課題に積極的に取り組み、地域で活躍するローカルリーダーの育成を推進する。

4 教職員の授業力や指導力の向上のための取り組み

(1) 進路実現に必要な学力を生徒が身につけられるように、教職員の授業力の組織的向上を図る。

ア 授業アンケートの実施により常に授業を点検し、ICTの活用で授業の効率化を図り、授業改善や指導力の向上に取り組めるよう、授業改善システムを有効に機能させる

イ 公開授業、研究授業、互見授業、学力向上に向けての研修を効果的に設定するとともに、授業についての意見交換が活発に行えるような環境を醸成し、教職員が意欲的に授業研究に取り組めるように努める。

(2) 生徒が高い志を持ち、より高い進路希望を実現する為に教職員のキャリア教育の組織的向上を図る。

ア 科目選択指導と進路指導の密接な連携をはかり、系統的な進路指導を行えるよう、教職員の共通理解と資質向上を推進する。

イ 生徒と密に関わり、信頼関係を構築するために教育相談体制や生徒指導体制を整備し、生徒の情報の共有化や連携を密にして、教職員の組織的な指導力の向上を図る。

(3) グローバルリーダー・ローカルリーダーの育成に向けた課題の理解を促進し、教職員の共通理解と指導力の向上を推進する。

(4) 部活と勉強が両立できるように、クラブ顧問・教科間での連携の推進を図る

(5) 本校のめざす学校像・特色・強みを十分に広報し、目的意識が明確な生徒の志望を選られるよう広報活動を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><学習活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動については多くの項目で前年より 1 から 2 ポイントに改善している。特に、選択科目のガイダンスについては最上位評価が増え、否定的評価が減少している。 <p><進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 学力診断テスト及び模擬試験の結果分析と活用、進路実績については、改善している。 <p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談に乗ってくれる先生」の項目の肯定的評価が、生徒・教員とも減少している。生徒理解や生徒支援の校内研修を三回実施した結果、教員の意識が高まり、否定的な回答が増えた」と評価している。一方で、生徒の変化にはまだ十分対応しているとは評価できない。 <p><自主活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 自主活動については、肯定的評価が増加している。生徒の自己肯定感も育ってきていると思われる。 <p><人権></p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・人権の学習については、生徒の評価は上がっている、教員の否定的な回答は、意識が高まり不十分とする回答が増えた」と評価している。 <p><その他>配付物については生徒・保護者とも大きく改善している。保護者向けのメールマガジンの工夫の効果があつた。</p>	<p>第 1 回 平成 28 年 6 月 29 日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市岡の世間からのイメージは悪くない。「市岡」のブランド作りをしていくべき。 定員が割れるとは思っていなかった。入学してから勉強ばかりで部活や行事はあまりできなさそうだと不安だという声を聞いた。 定員割れ問題を解決していく上で今後大切なこと三点。一点目、生徒・保護者の気持ちを一番に考えること。二点目、中学校の先生方に市岡高校のことを知ってもらうこと。三点目、進路説明会等の機会を利用して、市岡の情報をしっかりアピールすること。 <p>第 2 回 平成 28 年 11 月 14 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の経営計画のめざす学校像の「中核人材の育成」はどの学校も「リーダー」という中で思い切っている。 今まで余裕でやってきたのに、市岡にきたら必死でやないといけなくなり、余裕がなくなり、不登校になる生徒もいるのではないかと。 トップでなければ何をめざす。「市岡やないと！」というものがほしい。学区制・前後期がなくなって大きく変わった。市岡が手を抜いているわけではない。制度が要因。 <p>第 3 回 平成 29 年 2 月 15 日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の項目が多く学校経営計画との関係が不明瞭なので。学校経営計画を評価する内容に精査したいとの説明に、大いに賛成との意見。 平成 29 年度学校経営計画は、学校が何をめざすか、何をしようとしているかが具体的に示されていて、わかりやすい。 いい学校なのに、生徒募集につながっていないのはなぜだろうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 知識基盤社会を生き抜く学力を確実に身につけることと、主体的に学ぶ力を育成するための取組み</p>	<p>(1) 学習に主体的に取り組む姿勢を徹底させるとともに、進路実現に向けた学力の向上に努める。</p> <p>ア 日常的に「質の高い授業」を提供することで、進路実現に結びつける学力を育てる。</p> <p>イ 3年間の教育プログラムをつくり、教職員間で内容を共有することにより、系統的で継続的な学習指導を行う。</p> <p>ウ 部活動と勉学の両立を図るために、学習ガイダンス指導を充実させるとともに、家庭学習を充実させる(授業以外の平均学習時間: 学年+1 時間を目標値とする)</p> <p>エ 教科における組織的な講習体制を構築するとともに、生徒の参加を促す取組みを進める。</p> <p>オ 各教科で課題研究等の取り組みを進め、生徒が主体的に学習に取り組む授業を積極的に進行。</p> <p>カ 探究的な学びや読書活動の推進を図る</p>	<p>ア 教職員の創意工夫により「質の高い授業」を提供し、進路実現可能な目標に向けて授業水準の向上・評価方法の工夫に取り組む。</p> <p>イ ・各学年での創意工夫によりガイダンス・オリエンテーション等の機会を通じて、3年間の系統的な学びを生徒に理解させる。 ・講習・補習の計画調整、教科間で各教科の学習量を検討、課題の調整、成績産出の調整を行い、生徒を授業で鍛える。</p> <p>ウ ・各部の創意工夫により部活動のインフォーム・コンセントを行い、より充実した部活動と学習との両立を行う。</p> <p>エ ・長期休業中の講習は前年度並みに組織化するとともに、土曜日の講習の充実を各教科の創意工夫で組織化する。</p> <p>オ 各教科の創意工夫で互見授業の推進。</p> <p>カ ・H26 年度から開始した「朝の読書」を継続する。 ・外部の研究発表への積極的参加、研究系部活動の活性化</p>	<p>ア 自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(H27: 51.7%) からの3ポイント増加</p> <p>イ 自己診断「進度や難易度が適切な授業が多い」の肯定感3ポイント以上増加(H27: 70.3%)。課題や宿題の量が多い(H27: 80.4%)に関する自己診断の改善。</p> <p>ウ ・自己診断「部活動と勉強の両立ができてい」の肯定感3ポイント以上の増加(H27: 55%) ・学習時間の前年度比 1.1 倍以上。</p> <p>エ 自己診断「本校は平日放課後・土曜日・長期休業中などに講習を十分に行っている」(H27: 78.4%)の肯定感の3ポイント以上の増加</p> <p>オ 自己診断「自分の考えをまとめたり、発表する授業がよく行われている」(H27: 60%)「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」(72.8%)の肯定感の3ポイント以上の増加</p> <p>カ 朝読関連の意識調査の肯定感の増加。「知識の幅が広がった」(H27: 3年次 19ポイント、2年次 18.7ポイント)「勉強に役立った」(H27: 3年次 15.6ポイント)という項目の増加</p>	<p>目標の自己診断の結果は目標の3ポイント増加に至っていない項目もあるが、概ね1から2ポイント増加しており、全体として概ね達成していると評価している。</p> <p>ア 自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(H28: 50.6%) 前年並み (△)</p> <p>イ 自己診断「進度や難易度が適切な授業が多い」(H28: 71.7%)。前年比改善 (○) 「課題や宿題の量が多い」(H28: 73.7%) 前年比改善 (◎)</p> <p>ウ ・「部活動と勉強の両立ができてい」(「学習状況調査」による) 前年比3ポイント改善 (◎) ・学習時間の前年度比 1.1 倍以上。 前年並みを維持府立高校全体と同じ傾向 (△)</p> <p>エ 自己診断「本校は平日放課後・土曜日・長期休業中などに講習を十分に行っている」(H28: 79.0%) 前年比改善 (○)</p> <p>オ 自己診断「自分の考えをまとめたり、発表する授業がよく行われている」(H28: 62.0%) ほぼ目標通り改善 (○) 「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」(72.3%) 前年並み (△)</p> <p>カ 朝読関連の意識調査の肯定感の増加。「知識の幅が広がった」(H28: 3年次 24、2年次 18.7ポイント)「勉強に役立った」(H27: 3年次 15.5ポイント)という項目の増加 (○)</p>
<p>2 生徒が高校生活において主体的に学ぶための取組み</p>	<p>(1) 生徒の国立大学及び難関私立大への志望を実現する</p> <p>ア 単位制の特色を活かして、自立した進路選択ができるようガイダンス機能を強化し、科目選択指導と進路指導を連動させた系統的な進路指導を実施する。</p> <p>イ 個々の生徒の志望の実現に向けて教職員が日々の実践の中で密接な関係を築き、より丁寧なキャリアカウンセリングを行う。</p> <p>ウ 生徒が進路について深く考え、高い進路意識を持てるよう、大学や職業について考える機会を「総合的な学習の時間」や特別活動等を活用して体系化する。</p>	<p>ア ・科目選択時に自分の将来を見越した判断で選択できるように、進路指導において的確な判断基準を育てる。特に大学見学会・職業ガイダンスなどの行事を科目選択指導に関連できるように戦略的に取り組んでいく。</p> <p>イ ・1・2年生から個々の生徒の学習課題を明確にし、受験に向けた学力の養成度を各種データを活用する。 ・キャリア教育は、日常的に教師と生徒の間に恒常的に行われるものであるという認識のもと丁寧なキャリアカウンセリングを行う。 ・1・2年の懇談期間には、必ず懇談案内をだし、保護者からの要望があったケースはもとより、進路関係で課題を抱えた生徒の懇談も積極的に行う。 ・学年会で日常的に生徒の科目選択・進路選択の個々のケースを話題にし、検討を行うなかで、教職員間の指導の格差を解消する。</p> <p>ウ ・「職業ガイダンス」「大学見学会」などを有効的かつ計画的に活用し、生徒の科目選択基準を育てる。 ・上記の計画以外にも進路別のミニ講演会・ミニ座談会などを組織に、卒業生・大学生を積極的に活用する。 ・近畿圏の大学はもちろん、地方大学についても積極的に説明会の機会を設け、全国に視野を向けた進路指導を行う。</p>	<p>ア 自己診断「科目選択の指導はきちんと行われている」(H27: 77.4%)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(H27: 83.4%)の肯定感3ポイント以上の増加</p> <p>イ 「学力生活実態調査、実力テストや模試は学習に取り組む態度を改善するために役立っている。」(H27: 63.7%)「『進路のしおり』は自分の進路を考える上で役に立っている。」(H27: 65.4%)「進路ガイダンス室は利用しやすい。」(H27: 38.6%)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」(H27: 65.9%)の3ポイント増加。</p> <p>ウ 自己診断「大学生等の卒業生のお話を聞く機会が多い」(H27: 59.9%)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(H27: 83.4%)「各種説明会や大学の見学など進路選択に関する学ぶ機会が多い。」(H27: 78.4%)「進路についての情報(進路情報、進路実績など)はよく知らされている。」(H27: 64.1%)の肯定感3ポイント以上の増加</p>	<p>2 全体としては、評価指標を上回っているものが多く、十分に達成していると評価している。</p> <p>ア 自己診断「科目選択の指導はきちんと行われている」(H28: 82.3%) 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(H28: 84.1%) 二項目合わせて評価 (◎)</p> <p>イ 「学力生活実態調査、実力テストや模試は学習に取り組む態度を改善するために役立っている。」(H28: 68.5%) 「『進路のしおり』は自分の進路を考える上で役に立っている。」(H28: 65.4%) 「進路ガイダンス室は利用しやすい。」(H28: 40.7%) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」(H28: 68.5%) 四項目合わせて評価 (◎)</p> <p>ウ 自己診断「大学生等の卒業生のお話を聞く機会が多い」(H28: 55.5%) 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(H28: 84.1%) 「各種説明会や大学の見学など進路選択に関する学ぶ機会が多い。」(H28: 76.8%) 「進路についての情報(進路情報、進路実績など)はよく知らされている。」(H28: 64.8%) 四項目合わせて評価 (△)</p>

府立市岡高等学校

<p>3 国際的視野に立って行動できる人材（グローバルリーダー）及び地域でリーダーとして活躍する人材（ローカルリーダー）の育成</p>	<p>(1) 文化祭・体育祭等の行事、部活動などを通じて、人間関係育成能力を育て、将来のリーダーを育成する。</p> <p>(2) グローバル化が進む社会で活躍する人材の育成のために、異文化交流の機会を増やし、国際交流及び語学研修を推進する。</p> <p>(3) 防災・人権・「政治的教養を育む教育」などの今日的課題に積極的に取り組み、地域で活躍するローカルリーダーの育成を推進する。</p>	<p>(1)・現在行われている生徒会の自主活動の質を維持する。</p> <p>(2)・米国ケント市2高校との短期交換留学の更なる充実。海外の学校との交流機会の積極的導入</p> <p>・オーストラリア語学研修通して世界を知り、チャレンジ精神やコミュニケーション力、英語学習へのモチベーションを高める。</p> <p>(3) H27年度に行われた防災・国際・人権教育の実践をベースにして、ユネスコスクールとして、本校のテーマである防災・国際・人権・地域について、総合的な学習の時間を用いて、生徒に正しい知識や考え方を伝え、自ら考え行動できる態度を育む。</p>	<p>(1) 自己診断「本校は、部活動や生徒会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている」(H27:80.9%)等の現在の肯定感維持。</p> <p>(2) 自己診断「本校は国際交流に力を入れている」(H27:76.9%)の3ポイント増加。</p> <p>・TOEFL 講座の満足度調査(達成テストの向上 H27 90%)</p> <p>(3) 自己診断項目「防犯、防災についてきちんと指導されている」(H27:82.2%) 「体罰やいじめ、セクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、部落差別、就職差別、在日外国人問題などについて人権尊重に基づいた教育が行われている。」(H27:81.3%)の肯定感の現状維持</p>	<p>3 全体としては、評価指標を上回っているものが多く、十分に達成していると評価している。</p> <p>(1) 自己診断「本校は、部活動や生徒会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている」(H28:87.4%) 大きく上回っている (◎)</p> <p>(2) 自己診断「本校は国際交流に力を入れている」(H28:87.6%) TOEFL 講座の満足度 (H28 70%) 二項目合わせて評価 (○)</p> <p>(3) 自己診断項目「防犯、防災についてきちんと指導されている」(H28:83.8%) 「体罰やいじめ、セクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、部落差別、就職差別、在日外国人問題などについて人権尊重に基づいた教育が行われている。」(H28:78.4%) 二項目合わせて評価 (○)</p>
<p>4 教職員の授業力や指導力の向上のための取り組み</p>	<p>(1) 進路実現に必要な学力を生徒が身につけられるように、教職員の授業力の組織的向上を図る。</p> <p>ア 授業アンケートの実施により常に授業を点検し、ICTの活用で授業の効率化を図りアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、授業改善や指導力の向上に取り組めるよう、授業改善システムを有効に機能させる</p> <p>イ 公開授業、研究授業、互見授業、学力向上に向けての研修を効果的に設定するとともに、授業についての意見交換が活発に行えるような環境を醸成し、教職員が意欲的に授業研究に取り組めるように努める。</p> <p>(2) 生徒が高い志を持ち、より高い進路希望を実現する為に教職員のキャリア教育の組織的向上を図る。</p> <p>ア 科目選択指導と進路指導の密接な連携をはかり、系統的な進路指導を行えるよう、教職員の共通理解と資質向上を推進する。</p> <p>イ 生徒と密に関わり、信頼関係を構築するために教育相談体制や生徒指導体制を整備し、生徒の情報の共有化や連携を密にして、教職員の組織的な指導力の向上を図る。</p> <p>(3) グローバルリーダー・ローカルリーダーの育成に向けた課題の理解を促進し、教職員の共通理解と指導力の向上を推進する。</p> <p>(4) 部活と勉強が両立できるように、クラブ顧問・教科間での連携の推進を図る</p> <p>(5) 本校のめざす学校像・特色・強みを十分に広報し、目的意識が明確な生徒の志望を選られるよう広報活動を推進する。</p>	<p>ア ・年2回の授業アンケートによる授業の検証。自由記述による生徒の「生の声」を踏まえた授業のマッチングの検証を行う。</p> <p>イ 各教科自主的に行う研究授業の推進。互見授業の推進</p> <p>ア H26年度で検証及び研修した内容を教務部・進路指導部のリーダーシップで推進する。</p> <p>イ 教育相談委員会の活性化、学年会での生徒状況の共有化及び具体的支援の確立を行う。</p> <p>(3)・ケント市との交流、語学研修等と総合的学習の時間の連携を更に深め、教職員全体での共通理解を深める。</p> <p>・付添体制のルール化を明確にする。</p> <p>(4)部活動のインフォームド・コンセントを押しめ、部活動と勉強の両立を図る。</p> <p>(5) 企画広報部を中心に、説明会・中学校訪問・各種説明会での充実・発展。H27年度と同様の説明会に加え、塾訪問を強化する</p> <p>・HPの充実</p> <p>・教職員間での広報活動の共通理解の促進</p>	<p>ア ・年2回の授業アンケートによる授業の検証。自由記述による生徒の「生の声」を踏まえた授業のマッチングの検証を行う。</p> <p>イ 自己診断の授業に関する項目の教職員と生徒・保護者間の差の縮小(「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく。」(H27:36.1ポイントの差))</p> <p>ア 自己診断「科目選択の指導はきちんと行われている」(H27:77.4%)等の項目も肯定感3ポイント以上増加、及び進路関連の増加。</p> <p>イ 自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」(H27:65.9%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」(H27:48.1%)の肯定感3ポイント増加</p> <p>(3) 自己診断「本校は国際交流に力を入れている」(H27:76.9%)の3ポイント増加</p> <p>(4) 自己診断項目「部活動と勉強の両立ができています」(H27:55%)の3ポイント増加</p> <p>(5) H29年度の志願者状況</p>	<p>ア 授業アンケートの各項目が概ね前回通りか、上昇しており、生自由記述による生徒の声を踏まえた、改善が行われたと評価。(○)</p> <p>イ 自己診断の授業に関する項目の教職員と生徒・保護者間の差の縮小(「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく。」(H28:43.2ポイントの差)) 差が拡大 (△) 進学講習の科目数・日程・時間割等を大きく改善したことを以て教員は自己評価しているが、その評価と保護者の質問内容のとらえ方に、異相があると思料される。</p> <p>ア 自己診断「科目選択の指導はきちんと行われている」(H28:82.3%) 大きく上回っている (◎)</p> <p>イ 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」(H28:68.5%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」(H28:52.4.1%) 二項目合わせて評価 (◎)</p> <p>(3) 自己診断「本校は国際交流に力を入れている」(H28:87.6%) 大きく上回っている (◎)</p> <p>(4) 自己診断項目「部活動と勉強の両立ができています」(「学習状況調査」による) 前年比3ポイント改善 (◎)</p> <p>(5) H29年度の志願者状況 ・教育方針の確立・共有、教員の広報への参画は校長として評価できる水準にあると思料される。 今後、中学生のニーズあった学校づくりを進め、一層の情報発信につとめていく。</p> <p>※学校教育自己診断の項目は、学校協議会にもご意見をいただき、次年度見直すこととしている。</p>